

ホームページ  
株主・投資家情報のご紹介

弊社の最新・詳細情報は  
ウェブサイトよりご覧いただけます。



株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

[ホームページアドレス](http://www.hibiya-eng.co.jp/)

<http://www.hibiya-eng.co.jp/>

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) お問合せ先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)
特別口座の 口座管理機関※	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) お問合せ先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)

※平成28年6月15日より、特別口座の口座管理機関を三菱UFJ信託銀行株式会社に変更いたしました。特別口座に関するお手続き、お問合せにつきましては、上記の三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部へお申し出ください。

▶ 各種手続のお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未済株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。  
証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行へお申出ください。

特別口座でのお手続用紙のご請求はインターネットでもお受けいたします。

[ホームページアドレス](https://safe.tr.mufg.jp/cgi-bin/daikou/youshi_01.cgi)

[https://safe.tr.mufg.jp/cgi-bin/daikou/youshi\\_01.cgi](https://safe.tr.mufg.jp/cgi-bin/daikou/youshi_01.cgi)

(一部の用紙は、お手持ちのプリンターで印刷できます。)

第52期 中間 IR 通信

2016年4月1日から2016年9月30日まで

株主・投資家の皆様へ

時代にまっすぐ、技術にまじめです。



目次	
ごあいさつ	1
事業報告	2
トピックス1: 新コーポレートアイデンティティとブランドメッセージ	3
トピックス2: 当期の主な完成物件	4
トピックス3: LCTータルソリューション実現に向けての取り組み	5-6
財務ハイライト	7-8
株式の状況	9
役員/会社概要	10

※ご注意  
本誌には、将来の業績予想などに関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなくリスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等に伴い、本誌の予想数値とは異なる可能性があります。

株主・投資家の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

また、本年7月には、皆様方の力強いご支援により、グループ創業50周年を迎えることができましたこと重ねて御礼を申し上げます。

さて、日本経済は、好調な企業収益を背景に緩やかな回復基調が続いていますが、中国を始めとするアジア諸国や資源国等の景気の下振れ、英国のEU離脱問題など、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響には懸念が拭えないところです。

建設業界においては、このところ公共投資が底堅い動きとなっているものの、将来的には、原材料価格や労務費の高騰懸念など、厳しい競争環境ともあいまって予断を許さない状況にあると認識しております。

このような環境の下、当社グループでは、第5次中期経営計画の最終年度を迎え、注力領域と位置づけました「データセンタ・情報」「オフィス」「生産・物流」「教育・医療福祉」「ホテル・リゾート」の各分野に亘り施工後のアフターフォロー体制を強化し、グループの施工経験を活かして「建物ライフサイクル(LC)トータルソリューション」を提供する営業活動を推進し、更なる収益基盤の強化に努めているところです。

下半期も、第5次中期経営計画をしっかりと仕上げるべく、当社グループの技術を活かした施工省力化と品質向上、あわせて、コンプライアンスの徹底、ICT化促進による業務効率化等による経営基盤の強化を図り、お客様のニーズにワンストップでお応えする「総合エンジニアリングサービス企業」として、更なる成長ステージを目指してまいります。

皆様方におかれましては、引き続き当社グループへのご理解とご支援を賜りますよう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

代表取締役社長 **西村 善治**

### 2017年3月期第2四半期の業績等

第5次中期経営計画の最終年度となる当期は、繰越工事の完成集中および原価縮減の取り組み等により、前年同期比増収増益となりました。

■ 受注高	344億 31百万円	(前年同期比: 4.0%減)
■ 売上高	295億 86百万円	(前年同期比: 8.6%増)
■ 営業利益	15億 43百万円	(前年同期: 営業損失5億39百万円)
■ 親会社株主に帰属する四半期純利益	9億 2百万円	(前年同期: 親会社株主に帰属する四半期純損失2億70百万円)

### 2017年3月期の業績予想

当期におきまして、受注高および売上高は期初の予想どおりに推移する見込であります。利益につきましては、原価低減施策の推進等による工事の採算性改善などにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに当初予想を上回る見込であります。

	2017年3月期 当初	2017年3月期 修正後	増減
受注高	750億	750億	±0
売上高	750億	750億	±0
営業利益	30億	40億	+10億
経常利益	40億	50億	+10億
親会社株主に帰属する当期純利益	25億	30億	+5億

### 当上半期におけるトピックス

本年7月にグループ創業50周年を迎え、グループ一体となり「総合エンジニアリングサービス企業」として更なる成長ステージを目指すべく、グループCIを統一いたしました。

また、業界にさきがけ導入した3Dスキャナーを活用したLCTータルソリューション提案は実績を重ね、「建物設備レポート」等の当社ツールをあわせながら、第5次中期経営計画の基本方針である「LCTータルソリューションの実現」に向けた成果が表れております。

京橋にあります当社の常設展示場「HIBIYA E&S PLAZA」では、エネルギーやスマートビジネス等をテーマにした「HIBIYA E&S

SEMINAR」を継続的に開催し積極的に情報を発信しております。最近ではIoT、BCP、ポスト2020年など多彩なテーマでの勉強会を開催、その他社内研修会等、様々なシーンで有効的に活用しております。

その他、全国各地で行われている展示会への出展、地域貢献活動への参加も積極的にを行いました。「当社保有技術アピール」や「地域社会への貢献」の場として捉え、今後も継続的に実施してまいります。

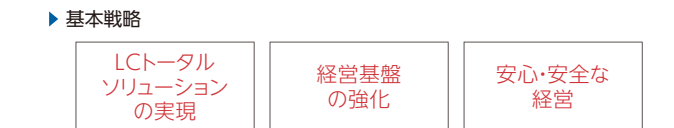
### 配当・株主還元施策

「より安定的な株主還元実施」の観点から、連結ベースでの純資産配当率(DOE)に着目した配当を実施しております。当期は、第5次中期経営計画の進捗状況を踏まえるとともに、本年7月にグループ創業50周年を迎えることに鑑み、1株当たり10円の記念配当を含め年間配当金を50円とし、中間・期末配当ともに25円の配当を予定しております。

また、資本効率の向上並びに株主の皆様に対する利益還元の一環として、自己株式の取得についても機動的に取り組んでおります。当期におきましても、年間を通じて50万株、8億円を上限とした取得枠を設定し、継続的な取得を実施しております。

### 第5次中期経営計画(2015年3月期~2017年3月期)

▶ 基本方針  
**お客様のニーズにワンストップで応える「総合エンジニアリングサービス企業」へ飛躍**



▶ 主要業績目標(連結) 中計3カ年各年度目標値

受注高	700億以上
売上高	700億以上
営業利益	25億以上
経常利益	33億以上
親会社株主に帰属する当期純利益	20億以上



新たな挑戦、  
始まる。

## 「総合エンジニアリングサービス企業」として、 更なる成長ステージを目指して

本年7月、グループ創業50周年を迎えました。グループ一丸となって総合エンジニアリングサービスを提供するためのシンボルとして、グループ統一のロゴマークを制定、9月1日より使用を開始いたしました。

シンボルロゴマーク



ブランドメッセージ

時代にまっすぐ、技術にまじめです。

これまで、当社グループは、「総合エンジニアリングサービス企業」として、設備に関連する様々な領域で、最高水準の技術開発と習得を追求してきました。一貫して「設備とその周辺領域をホームグラウンドとした取り組み」を継続してきたからこそ、グループ創業50周年を迎えられたと言っても過言ではありません。

お客様目線で物事を考え「技術に確証のないいい加減なことをしない」、「正々堂々と誇りをもって仕事をする」など、「当社グループのDNA」とも言える私達の特質がこのメッセージに込められています。  
(※50周年を機に、ユニフォームも一新しました。)

創業50周年を機に、日比谷総合設備グループが目指す姿

1

建物ライフサイクル  
全般に高付加価値を  
提供

2

専門化した「技術」  
「知識」「人材」  
「バリューチェーン」結集

3

お客様・社会・  
地球環境へ貢献

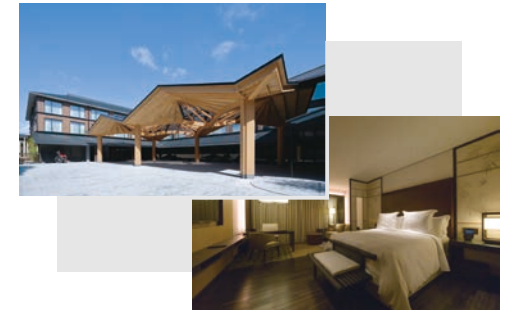
第5次中期経営計画において、グループの目指す姿を、設立の趣意であった「優秀な技術力を擁する総合設備請負業」から「お客様のニーズにワンストップで応える「総合エンジニアリングサービス企業」としました。

フォーシーズンズホテル京都

## 観光都市「京都」にオープンした、800年の歴史ある 日本庭園を受け継ぐエクセレントホテル



- |          |           |
|----------|-----------|
| 1 京都府京都市 | 4 34,727㎡ |
| 2 ホテル    | 5 地上4階    |
| 3 空調・衛生  | 6 2016年9月 |



宮崎東病院

## 空港に近接する 地域医療ネットワークの拠点病院



- |           |
|-----------|
| 1 宮崎県宮崎市  |
| 2 病院      |
| 3 空調・衛生   |
| 4 9,788㎡  |
| 5 地上6階    |
| 6 2016年9月 |

アーバンネット銀座1丁目ビル

## 活気あふれるビジネスエリアのBCPおよび 快適性能を兼ね備えたオフィスビル



- |                              |
|------------------------------|
| 1 東京都中央区                     |
| 2 オフィス                       |
| 3 電気                         |
| 4 11,879㎡                    |
| 5 地上8階 地下1階 塔屋1階             |
| 6 2016年2月<br>(テナント工事2016年5月) |

凡例 ▶▶ 1 所在地 2 建物用途 3 施工設備 4 延床面積 5 規模 6 竣工時期

# 当社の「設備劣化診断」を用いて 医療施設のライフサイクルを支援

建物は、ある程度の年数を経ると経年劣化等の課題に直面し、維持管理に相当の労力が必要となります。  
当社のサービスメニューである「設備劣化診断」により、建物のライフサイクルに応じたメンテナンスが可能となります。  
ご相談いただいた病院様に、改修・修繕が必要な設備を順位づけしたうえで給湯システムの更改を提案し、その工事のご発注をいただきました。

医療法人 **A病院**

病院の困りごと

- 病院開設後30年、設備改修後15年以上経過
- 熟知者が引退し設備の**現状把握**が不能
- メーカー等から多数の提案あるも手の付け方がわからず

顧客ニーズに  
マッチング

当社のアクション

“設備劣化診断”をご提案



▶ 連結

	第50期第2四半期 2015年3月期	第50期 2015年3月期	第51期第2四半期 2016年3月期	第51期 2016年3月期	第52期第2四半期 2017年3月期
売上高	28,104	71,329	27,252	79,401	29,586
売上原価	25,820	62,652	24,575	67,107	24,488
売上総利益	2,283	8,676	2,676	12,294	5,098
販売費及び一般管理費	3,258	6,693	3,215	7,618	3,555
営業利益(△損失)	△975	1,983	△539	4,676	1,543
経常利益(△損失)	△755	3,059	△331	6,344	1,475
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(△損失)	△494	2,630	△270	4,641	902
純資産額	56,597	58,939	57,377	59,947	59,553
総資産額	73,394	84,725	72,023	91,900	73,689
1株当たり純資産額(円)	1,823.71	1,912.49	1,871.33	1,966.69	1,963.63
1株当たり四半期(当期)純利益(△損失)(円)	△16.41	87.62	△9.10	156.88	30.81
自己資本比率(%)	74.6	67.2	76.9	62.8	77.8
現金及び現金同等物期末(四半期末)残高	6,813	4,863	8,652	5,945	8,893
従業員数(人)	892	874	873	866	868

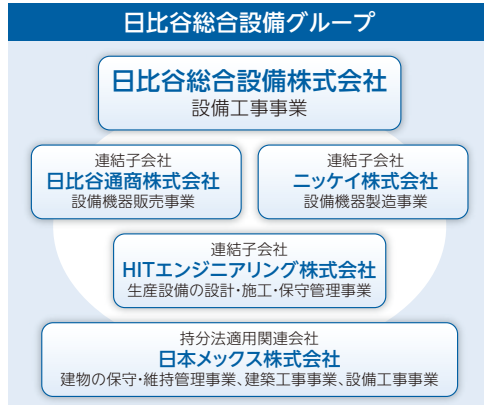
(単位:百万円)

Point 1 収支の概要

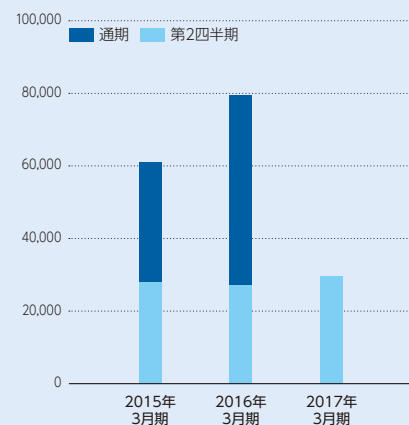
- 売上高は**295億86百万円** 前年同期比8.6%増加
  - 売上原価は**244億88百万円** 前年同期比0.4%減少
- 利益につきましては原価低減の継続実施等を行った結果、以下の通りになりました。
- 営業利益は**15億43百万円** (前年同期 営業損失5億39百万円)
  - 経常利益は**14億75百万円** (前年同期 経常損失3億31百万円)
  - 親会社株主に帰属する四半期純利益は**9億2百万円** (前年同期 親会社株主に帰属する四半期純損失2億70百万円)

Point 2 資産、負債及び純資産の概要

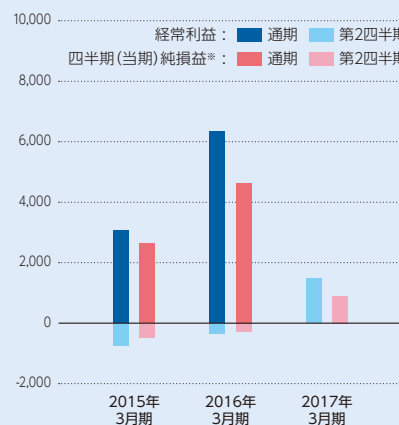
- 総資産は、**736億89百万円** 前期末比182億11百万円減少  
前期末比、受取手形・完成工事未収入金等が189億62百万円減少。
- 負債は、**141億35百万円** 前期末比178億17百万円減少  
前期末比、支払手形・工事未払金等が133億68百万円、未払法人税等が23億39百万円それぞれ減少。
- 純資産は、**595億53百万円**  
前期末比、その他の有価証券評価差額金が5億円減少。



売上高 (単位:百万円)

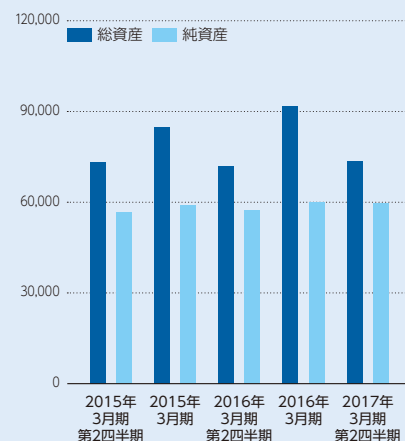


経常利益&四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



※親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

総資産&純資産 (単位:百万円)



▶ 個別 (ご参考)

	第50期第2四半期 2015年3月期	第50期 2015年3月期	第51期第2四半期 2016年3月期	第51期 2016年3月期	第52期第2四半期 2017年3月期
売上高	24,305	62,572	24,369	70,185	26,405
営業利益(△損失)	△944	1,531	△523	4,051	1,526
経常利益(△損失)	△710	1,923	△281	4,510	1,704
四半期(当期)純利益(△損失)	△461	1,801	△202	3,167	1,158
純資産額	35,532	36,790	35,403	36,659	36,409
総資産額	48,653	59,542	47,951	64,242	47,921

(単位:百万円)



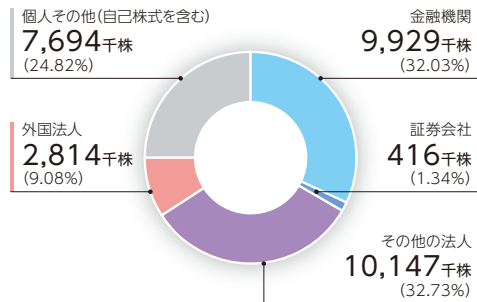
- ▶ 発行する株式の総数 96,500,000株
- ▶ 発行済株式の総数 31,000,309株
- ▶ 株主数 2,688名

大株主の状況

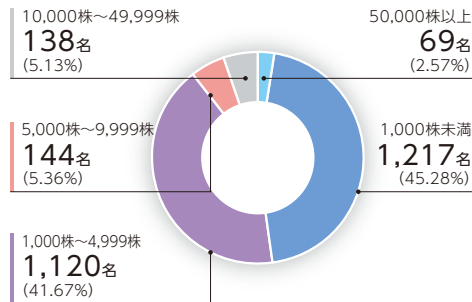
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,524	4.91
エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社	1,371	4.42
日比谷総合設備取引先持株会	1,262	4.07
住友不動産株式会社	964	3.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社百十四銀行口)	900	2.90
株式会社三井住友銀行	853	2.75
一般社団法人電気通信共済会	838	2.70
第一生命保険株式会社	818	2.63
株式会社りそな銀行	601	1.94
共立建設株式会社	594	1.91

(注) 1. 当社は、自己株式1,626千株(発行済株式総数の5.24%)を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。  
 2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。  
 ■日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口):1,524千株  
 ■日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社百十四銀行口):900千株  
 (株式会社百十四銀行から委託された信託財産であり、議決権行使に関する指図者は株式会社百十四銀行であります。)  
 3. ブランデス・インベストメント・パートナーズ・エル・ピーから、平成28年5月23日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書の変更報告書により平成28年5月16日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有株式数の確認ができておりません。なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。  
 ■大量保有者:ブランデス・インベストメント・パートナーズ・エル・ピー  
 ■保有株式数:1,483,700株(発行済株式総数の4.79%)

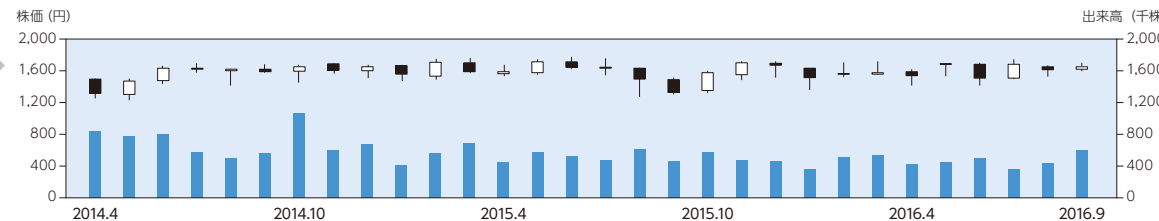
所有者別株式分布状況



所有株式数別分布状況



株価および出来高の推移



取締役及び監査役

代表取締役社長	社長執行役員	西村 善治
代表取締役副社長	副社長執行役員	豊田 茂
取締役	常務執行役員	蒲池 哲也
取締役	常務執行役員	下田 敬介
取締役	常務執行役員	貫川 博史
取締役	上席執行役員	尾倉 史晃
取締役	上席執行役員	山内 祐治
取締役	相談役	野村 春紀
取締役		楠美 憲章
取締役		渥美 博夫
常勤監査役		桑原 亨二
監査役		辰村 裕司
監査役		伊藤 晶
監査役		中村 昌光

執行役員

常務執行役員	伊藤 伸一
上席執行役員	池知 宏志
上席執行役員	峯田 喜次郎
上席執行役員	古閑 一誠
上席執行役員	一ノ瀬 英次
上席執行役員	諏訪 光悦
執行役員	小山 実
執行役員	富江 覚司
執行役員	長澤 義直
執行役員	遠藤 護
執行役員	小原 安正
執行役員	田家 光規
執行役員	永井 智雄
執行役員	享保 裕彦

(注) 1. 取締役楠美 憲章、同渥美 博夫はいずれも会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。  
 2. 監査役桑原 亨二、同辰村 裕司、同伊藤 晶はいずれも会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。  
 3. 取締役楠美 憲章、渥美 博夫及び監査役桑原 亨二、伊藤 晶につきましては、東京証券取引所に対し独立役員として届け出ております。

商 号 : 日比谷総合設備株式会社  
 Hibiya Engineering, Ltd.  
 設立年月日 : 1966年3月9日  
 資 本 金 : 57億53百万円  
 株 式 : 東京証券取引所市場第一部  
 従 業 員 数 : 個別 711名 連結 868名  
 事 業 内 容 : (1) 空気調整装置工事  
 (2) 電気設備工事並びに通信設備工事  
 (3) 給排水その他衛生設備工事  
 (4) 建築並びに土木の設計及び工事  
 (5) 機械器具設置工事  
 (6) 不動産の売買、仲介、賃貸及び管理  
 (7) 建築設備、環境衛生関係機器の製造及び販売  
 (8) 建築物、建築設備の保守管理、警備及び清掃業務  
 (9) 建物セキュリティシステムの開発、設計、施工、販売及び保守  
 (10) 労働者派遣事業  
 (11) 前各号に関するコンサルティング業務  
 (12) 前各号に付帯する事業  
 建設業許可 : 国土交通大臣許可(特-27)第3931号  
 管工事業、機械器具設置工事業、電気工事業、電気通信工事業、水道施設工事業、建築工事業、土木工事業、ほ装工事業、とび・土工工事業、消防施設工事業  
 一級建築士事務所 : 東京都知事登録第28260号  
 事 業 所 :  
 本 社 東京都港区芝浦四丁目2番8号  
 東京本店 東京都港区芝浦三丁目4番1号  
 支 店 北海道、東北、横浜、東海、北陸、関西、中国、四国、九州  
 営 業 所 函館、秋田、新潟、長野、茨城、北関東、千葉、静岡、神戸、岡山、熊本、鹿児島、沖縄  
 研究施設 千葉県野田市